

home@mb.kyoto-np.co.jp

快適な職場へ工夫多彩

勤務日や時間を自由に決められる「シルバー・アソシエイツ制度」に取り組むのは、関東・中部・関西で店舗展開する「スギ薬局」(本社・愛知県大府市)。65歳以上が対象の制度で、同県内の45店舗で60~80代の男女計170人が働いている。主な業務は開店前後2~3時間の陳列作業。並べた商品の個数で報酬が決まる業務請負契約だ。店側には人手不足解消の狙いもある。制度だが、自由に働ける仕組みはシニアに好評だそうだ。

2年前から週5日ほど働く愛知県西尾市の水村晴美さん(67)は「朝働くと一日のリズムができ、新たな仲間との出会いもある。品数が多いので頭の刺激になると、店内を歩くのは運動にもなる。健康情報をいち早く入手できるのもうれしい」と満面の笑み。各地の500店舗で、計2500人まで増やす計画という。

マッサージ室常設や飲食費無料も



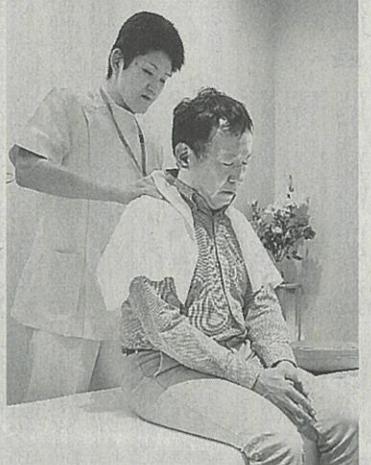
問題、かるたで本音 交流会で仲間作り

東京・丸の内で、グループ会社を含めて女性社員23人を集めた交流会を訪れる。会議室は和やかな雰囲気だった=写真。使っていたのは「職場の問題かるた」。今年秋に発売された、働き方改革用のアイデア商品だ。

「けじめなく、今日もなかよくダラダラ残業」、「眠気とたかう、退屈な会議」など、さまざまな職場に共通する「あるある」な問題が書かれたかるたでゲームを実施。その後、どうしたら職場の問題が解決するかの議論を重ねた。参加した小柄田記子さん(39)は「かるたは、普段思っていても言えないことを和気あいあいと楽しく言い合える突破口になるのでは」と評価。清水智恵美さん(46)は「意識していなかつた問題にも気付けたし、気持ちを吐き出せてスッキリした。改善に生かしたい」と期待を語った。

働き方改革

働き方改革といえば、時短や生産性向上に話が偏りがちだが、昨今は快適な職場づくりに工夫を凝らす企業も目立ってきた。好きな時だけ勤務できたり、社内の多様な人材を活用したり、社員の楽しみを支援したり。どこも目指すのは、多くの人が働きやすい環境だ。



(上)開店前のスギ薬局の店舗で、手際よく商品の陳列をするシニアの女性たち(愛知県西尾市) (中)日本メドトロニック社内の「リラクゼーションルーム」でヘルス・キーパーを務める弱視の社員に肩をもんでもらう浅見理さん(東京都港区) (下)「freee」の社内に設けられた飲食「一ナード」で、無料の飲み物を手に談笑する社員(同品川区)

(東京都品川区)は福利厚生の充実に取り組む。勤務中の飲み物や軽食、夕食は無料。社内の部活動の部費も補助する。根底には、職場が私生活同様に楽しく、ワクワクした気持ちで働けるように力を入れてくれているのがうれしい」と話す。

社員の関口聰介さん(42)は「労働生産性は結果でしかない。社員を信じ、幸せに働けるように力を入れてくれるのを重視する同社の考え方がある」という。

幸福学を研究する前野隆司慶心大教授は、働き方改革では業務の効率化ばかりではなく、職場のコミュニケーションや創造性の向上も大切だと指摘。「幸せな気持ちはなれば労働生産性も上がる。メンタルの問題などによる欠勤や離職率も低くなるだろう。ライフワークも心豊かになれるよう、何のために働いているのかを考える時間も重要な時間だ」と助言している。